

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム ふじの里(やまぶき棟)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500154		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホームふじの里(やまぶき棟)		
所在地	奥州市江刺区藤里字平37番地2		
自己評価作成日	平成 30 年 1 月 5 日	評価結果市町村受理日	平成30年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhou_detail_2017_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0391500154-00&PrEfCd=03&VerSi onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年 1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふじの里では、「住み慣れた街で生き生きとした生活の実現を支援する」という理念のもと地域との交流活動を積極的に取り組んでおります。保育所・小学校との交流会、中学校の職場体験実習及び奉仕活動の受け入れを行ってきました。また小学校の運動会見学や、地区振興会主催の文化祭への作品出展並びにステージ発表にも参加しております。また、併設の認知症対応型デイサービス利用者との交流も盛んで、合同レクリエーションを頻回に行っております。また季節感を感じて頂けるような年間行事として、お花見、夏祭り、紅葉狩り、クリスマス会など実施しております。なかでも紅葉狩りの際は、レストランでの食事を実施しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

生き生きとした生活の場を念頭に、6年前に開設した2ユニットのグループホームふじの里は、併設のデイサービスと連携を図り、職員と利用者が一体の家族として、生活の場として介護サービスを提供している。年々地域との繋がりも深まり、特に保育所・小・中学校との運動会や職場体験学習、地区の文化祭などで交流する機会が増えている。ホーム内では千貫石温泉の湯治湯を汲み入れた大浴槽を備え、両ユニットの利用者やデイサービス利用者との良き交流の場となっている。広いホールを中心とする両ユニットへの長い廊下は、様々なレク活動の他、ミニ運動会や歩行運動、特に冬場の身体訓練には最適である。地区の文化祭には、利用者と職員が合作した干支のちぎり絵を出展し、また、利用者によるコーラスを披露し、大好評である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ふじの里(やまぶき棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用様の思いや願いをに寄り添う」という理念の元、利用者の日々の状態を職員間で共有できるよう、職員間で連絡ノートを作り情報の共有に努めている。	「笑顔・和・支え合い」の基本姿勢のもとで、出勤時にまず連絡ノートに目を通し、利用者への思いや願いに寄り添うケアに心がけている。職員会議では、利用者へのより良い声掛け・確認の徹底・問いかけ等について意見を出し合い、共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	できる限り、ホームの外に出る活動を取り入れている。今年は、小学校の運動会、文化祭の見学、地区振興会主催の文化祭への作品展示及びステータ発表に参加した。	地区の文化祭・運動会、小学校の運動会、地域の演芸会など様々な交流があり、特に文化祭では干支のちぎり絵を出品したうえ利用者によるコーラスも披露し大好評だった。中学生の職場体験受入れも実施し、地区・地域への貢献度が増してきた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣中学校の生徒さんの職場体験をし認知症の方との接し方など理解して頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練の報告を行った際、委員より、地区の防災訓練への参加を勧められ、職員が実際に参加した。	会議は2か月毎に活動報告を中心に行っており、1つの事業を掘り下げて話題とし、その時の利用者の状況や職員の思いを委員に伝えている。また意見交換では、地区振興会の事業を紹介いただいたり、地区内の介護予防事業の取組み等についてご紹介いただいたりと情報交換の場として活用されている。	保育園、小・中学校との交流が多くなり、文化祭で子供達と利用者によるコーラスの実現を描きながら、保育園、学校関係者を会議メンバーとしていくことは如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通してではあるが、地域包括支援センター職員に対し、入退居の状況並びに入居者の状況について報告し、助言を頂いている。	運営推進会議を通して、委員である健康福祉課職員に対し、入退去の状況について報告し助言を得ている。また、利用者の介護認定更新手続き支援や、生活保護受給者に対する福祉課との連絡調整等を行っている。また、市主催の共同指導会への参加を通して意見交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居時に身体拘束に関する基本方針を提示しており、職員に内容を理解するよう周知している。原則的には身体拘束を行っていないが、早朝・夜間の安全配慮のためその時間のみ施錠している。	法人として身体拘束ゼロ宣言」を掲げ、職員全体に周知、啓蒙している。また、ホームとして入居時に「身体拘束廃止に関する指針」をもって、利用者、家族に対しやむを得ない場合を除き身体拘束をしない介護を実践する旨を伝えている。また、その内容を職員と共有するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する資料をユニットに備え付けている、社内の勉強会はまだ行っていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や生活自立支援事業をユニットに備え付けているが、利用している利用者はなく勉強会をまだ開催できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ホーム入居への不安を相手の立場で考える様接し、丁寧に説明をするよう心掛けるとともに、意向確認書にて、重要事項に関しては二重に確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱・ホームページでの意見収集の機会を設けているが、特に利用はされてない。家族からは面会時や通院時の機会に意向を聞いている。また毎月ふじの里だよりを送付し、近況の報告が喜ばれている。	「ふじの里だより」を毎月発行し、家族に近況報告をしている。また家族の面会時に意見、要望を聞いている。職員は利用者に対して常に「寄り添う介護」を意識して接しており利用者は職員に気軽に話しかけることができる関係性が築かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人代表者と管理者が頻回に意見交換を行い運営に生かしている。また職員個々から出ている意見も具申している。	代表者のデスクがホーム内にあることで、管理者も職員もコミュニケーションをとりやすい。また気づきノートに職員がこまめに記入しているため、勤務体制などの職員の意見・要望も容易に把握出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・管理者・職員で話しやすい環境があり、垣根のない会話から、各自が向上心、やりがいを持てる職場環境がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制の配慮とともに、介護支援専門員の受験、介護福祉士の受験、社会福祉主事、実践者研修、管理者研修を受講した者がいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会の会員であり、他施設研修等で、他施設の職員との交流もある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みがあった場合、本人様と面会し、ホームにて、どのように生活したいか、不安や要望を傾聴し、相手の立場になり親切かつ丁寧な説明に心がけている。不安に思った所があった場合いつでも相談にのっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時からホームの入居に関して困っている事や、不安、要望、ご家族様の意向を伺い、質問に応じ納得していただけるよう努めている。利用前であっても都度相談に応じられる事を説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様との面会を通し、今一番困っている事、一番したいことを明確にして、どのサービスが一番良いか、話し合いにて納得して利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒にテーブルにての食事や、食器拭き、おしぼり作り、洗濯物干し、洗濯物たたみをしていただいたり。干し柿作りを教えて頂いたりしながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や毎月の便りにて、本人の生活の様子や思いを伝え、ケアに関して相談しながら気軽に話し合うことが出来る様配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の運動会を見学した際その会場で利用者に挨拶に地元の知人が沢山こられた。また親戚で昔から行っている、床屋に行っている利用者もいる。	慰問に来てくれる婦人部や保育園児、地域行事の際に親しく話す旧知の友人、米寿・白寿祝いに訪れる地域の方々、家族の他に多くの方々と日常のお付き合いがあり、今の馴染みの方々である。また、カラオケと一緒に楽しむ併設のデイサービス利用者もここでの馴染みの人たちである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士で隣同士に座ってもらったり、おやつを食べたり、レクリエーションなどを通じ全員で楽しめるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にも、相談に応じられる事を説明している。退去後、家族様より近況の報告があり、確認した事があった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者ごとに担当職員を決め、入居者とできる限り話し合う時間を作っている。	ホームでは職員が進行役となって毎日、朝の会を行っている。朝の会では、日付、天気などの確認に加え、利用者一人一人の状況(健康状態・入浴希望等)を伺い、その人らしい暮らしができるように配慮している。何かを職員に伝えたい様子を見逃さないように、目配り、気配りをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査にて、ご自宅を訪問し、ご家族様より状況の聴取、ご自宅での様子を実際に確認し現状を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実施記録に毎日、バイタル・食事摂取量・レク・入浴を記録し、日々の経過記録を確認し、毎月のモニタリングをもとに、課題分析表にてカンファレンスをしてケアプラン化し一人ひとりの対応と過ごし方を職員が理解し実行している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が入居者の状況をモニタリングし、計画作成担当者が中心となって、ケアプラン原案を作成し、管理者、介護支援専門員を加えてカンファレンスを行い、より、入居者様の意向を踏まえた生活ニーズとその支援内容を決定している。	介護計画作成の基本は、計画作成担当者が居室担当職員、本人又は家族から思いや意向を聞きながら実施記録、業務日誌などの記録を反映させることとしている。入居後、ある程度落ち着くまでは毎月見直している。なお、計画変更に際しては、家族に来所いただき納得の上で進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施記録、業務日誌、経過記録を元にモニタリングをし、連絡ノートにて日々の様子を記録し、職員間で情報を共有しながら実績、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度、利用者に合わせたケアに必要な事項や物の検討を常にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の歳末助け合い(文化祭)に参加し合唱を披露した。また展示に干支のちぎり絵を出展した。地区民運動会、近隣小学校から運動会のお招きがあり見学にて参加した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、入居者様・ご家族様の医療に関するニーズを伺い、かかりつけ医を決めている	両ユニットで6名が入居前のかかりつけ医を受診し、その他の方は入居時に協力医に変更している。眼科や歯科で以前のかかりつけ医を利用されている方も数名おり、家族同伴で受診している。医師への情報提供は主にファックスで行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の服薬状況、体調など状況に応じ都度、協力医療機関に報告し、利用者の体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に緊急受診、入院した場合、情報提供書を医療機関に提示している。退院時は看護サマリーの提示を求めスムーズにホームに戻って来られるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居に当たり、ご家族様に対し、入居者様の終末期における意向を確認している。当ホームとしては終末期に関する基本的な考えを職員と共有しているが、実際には体制作りが整っていない現状である。	重度化や緊急時の対応は、入居時に家族に説明し同意を得ており、マニュアルに基づいて医師の指示やデイサービスの看護師の助言・指導を得て対応している。これまで2名の看取りを経験し、終末期には家族の意向を確認し希望に沿った対応をすることとしているが、現状では体制上難しい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは現在の状況を踏まえて見直しをしている。実践的訓練も今後定期的に行なおうと検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練、夜間訓練を実施した。避難の態勢については地域住民の協力を得るよう努力しているが、現実的には難しいため、警備会社と契約し、火災時の対応をお願いしている。	火災探知機、スプリンクラー等、防災備品も整っており、年2回の避難訓練も実施(本年度は、夕方の時間を利用し夜間訓練も実施)し全職員が身につけている。また災害時、警備会社と連携をしている。	デイサービスが併設された2ユニットと利用者数が多い。火災時には外への避難となり、見守り・誘導には、警備会社に加え地域のマンパワーが必要であり、更なる声掛けを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴の方には耳元で話す。動作で推し量る等本人の意向の把握に努めている。また失禁等での失敗もさり気なくカバーし、誇りを損ねないようにしている。	職員は利用者との毎日の関わりの中で、家族同様に一人ひとりの個性や長所・短所を把握したうえで、利用者には足りない部分は自然に補い、長所は素直に褒めている。冗談で笑わせたり、特に難聴の方への接し方は微笑ましい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を職員からの問いかけによって引き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の自発的行動を優先するが、ある程度規則正しい生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時、どの服を着ていくか相談しながら決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年間行事で花見弁当を持ち、外でお昼を食べ、紅葉狩りでは食堂により利用者自身が食べたい物を注文し食べてもらいました。また日常では、茶碗洗い、茶碗拭き等出来る事に取り組んでもらっている。	献立は、法人の栄養士が両ユニット同一のものを季節や行事に合わせて作っている。誕生日にはバースデーカードを贈り、利用者と一緒に手づくりおやつやケーキづくりを楽しんだりするなど、変化のある食生活を心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施記録の中に日々の食事量や水分摂取量を記録し、そのデータから利用者の状況を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前、口腔体操を実施している。食後の口腔ケアを午睡前、就寝前に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については、排泄のパターンを把握し、適切な時間に声掛けにより、排泄や自立に向けた支援をしている。夜間に限らず、ポータブルトイレは使用していない。	排泄チェック表を基に声がけをしている。何名か自立している利用者はあるが、見守りは行っている。リハビリパンツを使用していた利用者が下着のパンツを使用するなど改善が見られる。少しでも自立に向けて改善するよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションを通して適度な運動量と水分補給を促し接種するなどの支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望に関しては、朝の会で入居者の意向を確認し、入浴してもらっている。	入浴に関しては、「自分で出来ることは自分で」を基本に、安全に配慮して支援している。入浴に関する意向は、朝の会で確認している。また、希望される利用者は、デイサービスの大浴場を利用して入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の落ち着く場所にベッドを置いて休んでもらっている。本人の状況等配慮しながら、過ごしやすい環境には配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方等を個人チャートに綴り、職員が確認している。与薬に関しては確認表を作成し誤薬の無いように務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	将棋やカラオケなど好きな利用者と職員が対戦したり利用者同士で対戦し楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近隣のドライブに行ったり、戸外の散歩をしている。季節行事で、花見、つつじ狩り、紅葉狩り等があり楽しまれている。	時には利用者の希望で、散歩、ドライブに出かけることがある。好天日にはホームの前庭を散歩し、自家菜園の畑作業も行っている。また、通院の帰りに家族と外食したり、お墓参りに出かける方もいる。ホームでは条件が良ければ積極的に外出を心がけ、利用者の気分転換に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則利用者の金銭所持はなくホームで小口現金として管理している。買い物会などの行事を企画し金額を決めて購入できる場を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により随時行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールに、季節の花を飾り、また利用者と共同で作った壁飾り等掲示している。床暖、空気清浄機で適切な環境を整備している。「トイレ」の表示は利用者の目線に合わせ低い位置に貼っている。	広々とした玄関ホールを中央に、左右に2ユニットの作りになっている。全体的に天窓があり明るい。玄関ホールでは、ミニ運動会や様々なレクリエーションを頻繁に楽しんでいる。壁には文化祭に出品した大きな干支のちぎり絵が飾ってある。全館床暖房を備え、快適で安全な温度設定になっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事など、なじみの利用者同士で楽しく食べられるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具日用品、思い出の品など持ち込みを可能にしている。テレビ、椅子など持ち込まれている。	ベッド、洗面台、多段ボックスが用意され、それぞれに椅子・テーブル・テレビ・家族写真などを持ち込んでいる。床暖房で快適な温度に設定されている。趣味の鉢植えを持ち込み手入れを楽しんでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	レクリエーションを通して毎日年月日を確認すると共に明確にし生活している。トイレに「便所」の張り紙をして迷わず使用している。		